

1 目指す学校像

「HARD SPIRIT 貫徹精神」の下、幅広い知識と教養を身につけ、遅く豊かな心身を培い、郷土や我が国さらには国際社会の発展に貢献する志を涵養し、国際人として大局的な視点に立って行動できる人間を育てる学校を目指す。

2 本年度の教育目標

- ①学びの習慣の確立と学力の向上
生きる力につながる確かな学力の定着を目指し、学びのプロセスとしての学習習慣の確立と共に学びの結果としての学力の向上を図る。
- ②特別活動と部活動の充実
遅く豊かな心身と他者との協働を喜びとできる「睦み」の心の育成を目指し、社会性、協調性、主体性を育てる特別活動と部活動の充実を図る。
- ③グローバル教育の推進
進展するグローバル社会の中で、自己の在り方生き方を見つめ、世界に通用する国際感覚や教養、スキルを身につけ、社会に貢献する志の涵養を目指し、グローバル教育を推進する。
- ④英語運用力の向上と国際交流活動の推進
上記3点の育成を基盤としたその上に、国際人としての知性・感性を備え、大局的な視点に立ち、日本の内外の問題に対する正しい理解に基づいて行動できる人間、すなわちグローバルリーダーの育成を目指し、英語運用力の向上を図ると共に国際交流活動を推進する。

3 評価

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	中間期評価	課題	対策	自己評価	学校関係者評価	今後の課題																																																																																																																																																				
1 学 び の 習 慣 の 確 立 と 学 力 の 向 上	・家庭学習時間が少ない背景の一つとして、学習動機が働いていないことが考えられる。学習の動機づけを促すために、プロパーとして常に授業改善を図って。具体的には、学習内容はもとより教授方法を磨くことが肝要である。研究授業を基盤に据えて、教育遺産の伝達を図るとともに教授法の検討を行う必要がある。 ・1年生は緩やかな右肩上がり成績が向上している。2年次のいわゆる「中だるみ」期を如何にモチベーションをもって乗り切るかといった学習指導が必要になる。 ・偏差値と実際の学力とのギャップが認められる生徒もいる。「なんとなく正解」から「根拠のある正解」へと指導をする必要がある。	1年 ①家庭学習90時間/月 ②週明けテストの合格率100% ③国・数・英3教科総合の平均点偏差値50.0以上 ④各教科の平均点偏差値53.0以上 ④図書貸出数1000冊/年	①②③能率手帳スコアの効果的な活用方法とスマホ・携帯の適切な使用方法の指導。 ②学年団と教科(国・英)担当が取組について共通理解し、連携を図る。 ④各教科と連携して授業関連書籍を紹介してもらう。	①平均家庭学習時間 6月平常時 71.2分/日(27年度:108分/日) 3h以上 4名、2h以上 34名、30m未満 33名 7月期末試験時 155.3分/日 3h以上 89名、2h以上 188名、30m未満 4名 ②各教科の合格率(2回実施) 国語 75.5% 英語 92.4% ③7月記述模試結果 3教科総合平均点偏差値 48.0(27年度:49.1) 平均点偏差値60以上 5名(27年度12名) 平均点偏差値50以上 87名(27年度112名) 国語 49.8 数学 47.8 英語 47.8 ④368冊(27年度:489冊)	①平常時の目標達成率はわずか1.4%である。家庭学習習慣が確立している生徒は12.6%に過ぎない。 ③過去5か年間で最も低い結果となっている。また、平均点偏差値50以上の生徒の割合は30.1%となっており、例年の4割を大きく下回っている。 ④前年度比75.2%となっている。	①②③具体的な進路目標を立てさせ、目標達成のために必要となる学習時間と方法を考えさせ、実行させる。 ・課題に丁寧に取り組み、改善が図られるよう根気強く指導する。 ④図書委員の広報活動を充実させるとともに、SGHの探究活動と連動させる。	<table border="1"> <caption>家庭学習時間 一日の平均 (分)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">学年</th> <th rowspan="2">生徒数</th> <th colspan="2">一学期</th> <th colspan="2">二学期</th> </tr> <tr> <th>調査時</th> <th>平常時</th> <th>調査時</th> <th>平常時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>281</td> <td>155</td> <td>71</td> <td>138</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>277</td> <td>181</td> <td>71</td> <td>-</td> <td>74</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>週明けテストの合格率</caption> <thead> <tr> <th>教科</th> <th>第1回</th> <th>第2回</th> <th>第3回</th> <th>第4回</th> <th>第5回</th> <th>第6回</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語</td> <td>86.8</td> <td>63.7</td> <td>84.7</td> <td>93.8</td> <td>78.3</td> <td>77.2</td> <td>80.8</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">英語</td> <td>普通科</td> <td>99.6</td> <td>98.3</td> <td>92.1</td> <td>78.8</td> <td>90.8</td> <td>72.5</td> <td>88.7</td> </tr> <tr> <td>英語科</td> <td>75.6</td> <td>95.1</td> <td>85.4</td> <td>85.4</td> <td>80.5</td> <td>56.1</td> <td>79.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>【学びのプロセス1 家庭学習時間】 定着が課題である。2年生11月時の調査では、平常2時間以上学習している生徒は14.2%にすぎない。その一方で、1時間未満である生徒は43.3%となっている。週明けテストの合格率結果からも、後半期以降、日常の家庭学習が定着されていない状況が見て取れる。週明けテストに合格するまで再試験を繰り返す、課題未提出者には放課後に取組ませる等、ハードルを下げない初期指導が求められる。</p>	学年	生徒数	一学期		二学期		調査時	平常時	調査時	平常時	1年	281	155	71	138	65	2年	277	181	71	-	74	教科	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	平均	国語	86.8	63.7	84.7	93.8	78.3	77.2	80.8	英語	普通科	99.6	98.3	92.1	78.8	90.8	72.5	88.7	英語科	75.6	95.1	85.4	85.4	80.5	56.1	79.7	C	【家庭学習時間を増加させる】 ①授業内容に対する関心・意欲を高める授業の確立 ②ハードルを下げない指導の徹底																																																																																													
		学年	生徒数	一学期		二学期																																																																																																																																																							
				調査時	平常時	調査時	平常時																																																																																																																																																						
1年	281	155	71	138	65																																																																																																																																																								
2年	277	181	71	-	74																																																																																																																																																								
教科	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	平均																																																																																																																																																						
国語	86.8	63.7	84.7	93.8	78.3	77.2	80.8																																																																																																																																																						
英語	普通科	99.6	98.3	92.1	78.8	90.8	72.5	88.7																																																																																																																																																					
	英語科	75.6	95.1	85.4	85.4	80.5	56.1	79.7																																																																																																																																																					
2年	①家庭学習100時間/月 ②国・数・英3教科総合の平均点偏差値50.0以上 各教科の平均点偏差値53.0以上 ③図書貸出数1000冊/年 ④読書感想文コンクール入賞10名以上	①・②スコア手帳の活用の充実とスマホ・携帯指導。家庭学習時間調査の実施と結果にもとづく個別指導の実施。英・数・国の取り組みに関して学年団で共通認識を持ち、協力し合う。 ②教科担当による学習指導の実施 ③・④G探Ⅱ、その他教科と連携して「読む」、「書く」の習慣化を図る。	①平均家庭学習時間 6月平常時 71.8分/日(27年度:84分/日) 3.5h以上 1名、2h以上 37名、30m未満 39名 7月期末試験時 181.2分/日 3.5h以上 104名、2h以上 212名、30m未満 6名 全くしていない6名 ②数学と英語に課題が見られる。数学の平均点偏差値は過去5年間で最も低い。英語については、平均点偏差値43未満の生徒の割合が26.6%となっており、過去4年間で最も多い。 ③前年度比59.5%となっている。	①目標達成者は1名のみである。家庭学習習慣が身に付いている生徒は13.4%に過ぎない。他方、「全くしていない」生徒が6名となっている。 ②数学と英語に課題が見られる。数学の平均点偏差値は過去5年間で最も低い。英語については、平均点偏差値43未満の生徒の割合が26.6%となっており、過去4年間で最も多い。 ③前年度比59.5%となっている。	①②LHや学年通信を通して、進路や受験に対する意識を高める。 ・隙間時間の有効活用やスマホの使用について、繰り返し指導する。 ・教科の課題に対する取組について、徹底した指導を行う。 ②内容の精選と効率化を図るとともに、計画的に演習課題を提示する。 ③グローバル探究Ⅱで、文献活用についての指導を行う。	<table border="1"> <caption>図書貸出冊数と読書感想文コンクール入賞者</caption> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>貸出冊数</th> <th>高知県読書感想文コンクール</th> <th>高知県テレビ視聴感想文コンクール</th> <th>大原富枝賞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>640</td> <td>入選9</td> <td>優秀1</td> <td>読書優秀1、小説優秀1</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>430</td> <td>入選7</td> <td>優秀1、佳作1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>610</td> <td>入選9</td> <td>優秀1、優良1</td> <td>小説優秀1</td> </tr> </tbody> </table> <p>*貸出冊数は2月末現在</p> <p>【学習のプロセス2 読書習慣】 読書を奨励し、朝読書に取り組んでいるクラブもあるが、学校図書の貸出冊数に課題が残る。教養を高め思考力を鍛える手段としては読書が最適であり、教科科目の学力を支える有効な手段でもある。この点を周知徹底する必要がある。</p>	学年	貸出冊数	高知県読書感想文コンクール	高知県テレビ視聴感想文コンクール	大原富枝賞	1年	640	入選9	優秀1	読書優秀1、小説優秀1	2年	430	入選7	優秀1、佳作1		3年	610	入選9	優秀1、優良1	小説優秀1	B	・中学校のアンケートでは、3年生の半数以上が3時間以上の家庭学習時間をしている。この状態を高校入学後も維持できたい。 ・また、時間量よりもやり方を工夫する必要がある。良い方法があったら、中学校にも教えてほしい。																																																																																																																																	
学年	貸出冊数	高知県読書感想文コンクール	高知県テレビ視聴感想文コンクール	大原富枝賞																																																																																																																																																									
1年	640	入選9	優秀1	読書優秀1、小説優秀1																																																																																																																																																									
2年	430	入選7	優秀1、佳作1																																																																																																																																																										
3年	610	入選9	優秀1、優良1	小説優秀1																																																																																																																																																									
3年	国公立大学合格者100名以上	①学年団のまとめ。②早期の小論文対策。③主要教科の強化。	【6月マーク模試結果】 5-8文系平均点偏差値 46.0 5-7理系平均点偏差値 45.1 国数英総合平均点偏差値 46.3 平均点偏差値60.0以上 文系7名 平均点偏差値50.0以上 文系52名、理系12名 【7月記述模試結果】 5-8文系平均点偏差値 47.5 5-7理系平均点偏差値 44.7 国数英総合平均点偏差値 47.0 平均点偏差値60.0以上 文系9名 平均点偏差値50.0以上 文系68名、理系9名	理系において、平均点偏差値60を超える生徒が見られない。また、平均点偏差値50以上の生徒は、6月マークで12名、7月記述で9名であり、過去5年間で最も少ない。	・基礎事項の復習・定着を継続しながら、演習形式で数多くの問題を解かせる。 ・生徒個々の課題を明確にさせ、改善に努めさせる。	<table border="1"> <caption>全国模擬試験結果</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">学年</th> <th rowspan="2">教科</th> <th colspan="3">1年次</th> <th colspan="3">2年次</th> <th colspan="3">3年次</th> </tr> <tr> <th>7月</th> <th>11月</th> <th>1月</th> <th>7月</th> <th>11月</th> <th>1月</th> <th>7月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">1年</td> <td>3総合</td> <td>48.0</td> <td>49.0</td> <td>49.2</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>国語</td> <td>49.8</td> <td>51.2</td> <td>50.8</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>47.8</td> <td>47.9</td> <td>48.1</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">2年</td> <td>3総合</td> <td>49.1</td> <td>49.8</td> <td>50.3</td> <td>49.9</td> <td>49.9</td> <td>48.1</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>国語</td> <td>50.8</td> <td>51.4</td> <td>51.9</td> <td>52.4</td> <td>52.6</td> <td>51.1</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>48.9</td> <td>49.4</td> <td>49.7</td> <td>48.9</td> <td>49.4</td> <td>46.7</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">3年</td> <td>国語</td> <td>52.2</td> <td>53.1</td> <td>53.2</td> <td>52.4</td> <td>52.2</td> <td>52.1</td> <td>50.4</td> <td>47.0</td> <td>49.2</td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>48.1</td> <td>50.1</td> <td>52.3</td> <td>49.7</td> <td>47.7</td> <td>47.3</td> <td>47.3</td> <td>46.6</td> <td>42.8</td> </tr> <tr> <td>英語</td> <td>48.7</td> <td>48.9</td> <td>50.3</td> <td>49.7</td> <td>48.1</td> <td>48.8</td> <td>48.9</td> <td>46.5</td> <td>48.1</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2">地公</td> <td colspan="2">46.6</td> <td colspan="2">50.2</td> <td colspan="2">49.5</td> <td colspan="2">48.0</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2">理科</td> <td colspan="2">50.3</td> <td colspan="2">51.3</td> <td colspan="2">49.8</td> <td colspan="2">50.2</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="10">国公立大学合格者数 97名</td> </tr> </tbody> </table> <p>【学びの結果 全国模試結果】 1年生は、目標に到達できていないが着実に向上している。2年生は、中だるみの時期と言われるように、国語・数学での下降が見られる。一方で、英語については着実に学力をつけている。SGH事業や英語検定取得の推進等の成果ともいえる。3年生は、浪人生が受験することを考慮してもなお、学力の定着に課題が見られる。</p>	学年	教科	1年次			2年次			3年次			7月	11月	1月	7月	11月	1月	7月	10月	11月	1年	3総合	48.0	49.0	49.2	/	/	/	/	/	/	国語	49.8	51.2	50.8	/	/	/	/	/	/	数学	47.8	47.9	48.1	/	/	/	/	/	/	2年	3総合	49.1	49.8	50.3	49.9	49.9	48.1	/	/	/	国語	50.8	51.4	51.9	52.4	52.6	51.1	/	/	/	数学	48.9	49.4	49.7	48.9	49.4	46.7	/	/	/	3年	国語	52.2	53.1	53.2	52.4	52.2	52.1	50.4	47.0	49.2	数学	48.1	50.1	52.3	49.7	47.7	47.3	47.3	46.6	42.8	英語	48.7	48.9	50.3	49.7	48.1	48.8	48.9	46.5	48.1			地公		46.6		50.2		49.5		48.0				理科		50.3		51.3		49.8		50.2				国公立大学合格者数 97名										B	【読書活動を促す】 ①グローバル探究での探究に係る参考文献については、何冊かの書籍や研究論文が必須であることを取り決める。 ②担任や部活動指導者が読書の重要性について、様々な場面で言及する。 【学力向上策】 ①33単位編成の教育課程を研究開発する。 ②機能的な学力検討会を実施する。
学年	教科	1年次			2年次				3年次																																																																																																																																																				
		7月	11月	1月	7月	11月	1月	7月	10月	11月																																																																																																																																																			
1年	3総合	48.0	49.0	49.2	/	/	/	/	/	/																																																																																																																																																			
	国語	49.8	51.2	50.8	/	/	/	/	/	/																																																																																																																																																			
	数学	47.8	47.9	48.1	/	/	/	/	/	/																																																																																																																																																			
2年	3総合	49.1	49.8	50.3	49.9	49.9	48.1	/	/	/																																																																																																																																																			
	国語	50.8	51.4	51.9	52.4	52.6	51.1	/	/	/																																																																																																																																																			
	数学	48.9	49.4	49.7	48.9	49.4	46.7	/	/	/																																																																																																																																																			
3年	国語	52.2	53.1	53.2	52.4	52.2	52.1	50.4	47.0	49.2																																																																																																																																																			
	数学	48.1	50.1	52.3	49.7	47.7	47.3	47.3	46.6	42.8																																																																																																																																																			
	英語	48.7	48.9	50.3	49.7	48.1	48.8	48.9	46.5	48.1																																																																																																																																																			
		地公		46.6		50.2		49.5		48.0																																																																																																																																																			
		理科		50.3		51.3		49.8		50.2																																																																																																																																																			
		国公立大学合格者数 97名																																																																																																																																																											

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	中間期評価	課題	対策	自己評価	学校関係者評価	今後の課題																																																																																																																						
2 特別活動と部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を確立し、高い目標を持って学校生活を送っている生徒がいる一方で、不適応傾向にある生徒も見受けられる。個に応じた指導を充実させたい。 全国大会に出場できる程の力を複数のクラブが有してきた。 グローバル探究で取り組むテーマと、グループ・ワークショップで探究活動を行っていることが成果となって表れたと推察される。 	<p>1年</p> <ul style="list-style-type: none"> ①皆勤 ②部活動加入率90%以上 ③体力運動能力テスト結果を全国平均並にする ④学校適応100% ⑤錬歩会参加率100% 完歩率95% 	<ul style="list-style-type: none"> ①食事や睡眠、体調管理、学習と部活動との両立などに留意しながら、規則正しい生活を送る。 ④ホーム担任と授業・部活動担当、生徒サポート部、家庭との連携により、②③④⑤学校行事、集会を通して学年団としての結束を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①231名(82.2%) ②92.2%(文化系42.0%、体育系50.2%) ④100% <p>体力・運動能力テスト結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>握力</th> <th>上体起こし</th> <th>長座体前屈</th> <th>反復横とび</th> <th>シャトルラン</th> <th>50m走</th> <th>立ち幅跳び</th> <th>ハンドボール投げ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">男子</td> <td>1年</td> <td>×</td> <td>△</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">女子</td> <td>1年</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>△</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table> <p>*○:全国平均を超えている △:全国平均並み ×:全国平均を下回っている</p>			握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ハンドボール投げ	男子	1年	×	△	×	○	○	△	△	×	2年	○	○	×	○	○	○	△	×	女子	1年	○	×	×	○	○	×	△	×	2年	○	×	×	○	○	×	×	×	<ul style="list-style-type: none"> ①中間試験終了時から22名減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ①規則正しい生活と体調管理に努めさせる。 	<p>皆勤</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>生徒数</th> <th>皆勤者数</th> <th>皆勤率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>281</td> <td>117</td> <td>41.8%</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>277</td> <td>105</td> <td>38.2%</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>277</td> <td>127</td> <td>45.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>学校適応</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>生徒数</th> <th>長欠</th> <th>適応率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>281</td> <td>1</td> <td>99.6%</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>277</td> <td>2</td> <td>99.3%</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>277</td> <td>1</td> <td>99.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>*長欠:連続してあるいは断続的に30日以上欠席がある</p> <p>4割を超える生徒が皆勤であり、3年間皆勤であった生徒は76名となっている。西高生の生真面目さや勤勉さを物語っている。良き伝統、良き雰囲気在今后も継続したい。</p> <p>錬歩会</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>生徒数</th> <th>参加率</th> <th>完歩率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>281</td> <td>94.3%</td> <td>99.3%</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>277</td> <td>99.3%</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>インフルエンザのため、参加率100%は達成できなかったが、途中リタイアした生徒はわずか2名であり、貫徹精神が発揮された。</p> <p>部活動参加者</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>生徒数</th> <th>活動者</th> <th>加入率</th> <th>継続率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>281</td> <td>260</td> <td>92.5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>277</td> <td>250</td> <td>90.2%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>277</td> <td>206</td> <td>74.6%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>全国大会出場クラブ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>体育系</th> <th>新体操</th> <th>水泳</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化系</td> <td>美術</td> <td>放送 写真</td> </tr> </tbody> </table> <p>2年生で、部活動に参加している生徒の割合が80%を下回っているが、継続率は設定目標を大きく上回った。各クラブとも精神的に取り組んでいる。今年度全国大会には、4つのクラブが出場することができた。次年度以降も文武両道で臨みたい。</p>	学年	生徒数	皆勤者数	皆勤率	1年	281	117	41.8%	2年	277	105	38.2%	3年	277	127	45.8%	学年	生徒数	長欠	適応率	1年	281	1	99.6%	2年	277	2	99.3%	3年	277	1	99.6%	学年	生徒数	参加率	完歩率	1年	281	94.3%	99.3%	2年	277	99.3%	100.0%	学年	生徒数	活動者	加入率	継続率	1年	281	260	92.5%		2年	277	250	90.2%		3年	277	206	74.6%		体育系	新体操	水泳	文化系	美術	放送 写真	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【学校適応率を100%にする】 ①担任、保護者、サポート部、SCとの機能的な連携を図る。 ②折に触れて、主体的で協力的に深い学びを追究できる授業を実施する。 【部活動の在り方を再考する】 ①月に1日～2日程度の部活動休止日を設定する。 ②平日における終了時刻の管理と速やかな下校指導を徹底する。
				握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ハンドボール投げ																																																																																																																				
		男子	1年	×	△	×	○	○	△	△	×																																																																																																																				
2年	○		○	×	○	○	○	△	×																																																																																																																						
女子	1年	○	×	×	○	○	×	△	×																																																																																																																						
	2年	○	×	×	○	○	×	×	×																																																																																																																						
学年	生徒数	皆勤者数	皆勤率																																																																																																																												
1年	281	117	41.8%																																																																																																																												
2年	277	105	38.2%																																																																																																																												
3年	277	127	45.8%																																																																																																																												
学年	生徒数	長欠	適応率																																																																																																																												
1年	281	1	99.6%																																																																																																																												
2年	277	2	99.3%																																																																																																																												
3年	277	1	99.6%																																																																																																																												
学年	生徒数	参加率	完歩率																																																																																																																												
1年	281	94.3%	99.3%																																																																																																																												
2年	277	99.3%	100.0%																																																																																																																												
学年	生徒数	活動者	加入率	継続率																																																																																																																											
1年	281	260	92.5%																																																																																																																												
2年	277	250	90.2%																																																																																																																												
3年	277	206	74.6%																																																																																																																												
体育系	新体操	水泳																																																																																																																													
文化系	美術	放送 写真																																																																																																																													
3 グローバル教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> グローバル探究Iは、27年度の実績を基にPDC Aサイクルを回していく。 グローバル探究IIでは、批判的思考と論理的思考に基づいた探究活動を進める。研究の枠組みを共通理解する必要がある。 学校の行事計画の中に、地域に対する貢献活動を編成するのは現状においては負担が大きい。今年度同様に、生徒会や家庭クラブ、生徒個々の自主的な活動に依拠せざるを得ない。 社会に対して自己を役立てたいと思う生徒が多い。これらの生徒の持つ志を大切にしたい教育活動を行う。 	<p>1年</p> <ul style="list-style-type: none"> ①グローバル探究Iへの積極的・協力的な参加 ②社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒の割合30%以上 ③政治的教養として、社会の課題を見出し、協働的に追究し解決する態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②③グローバル探究での取り組みを通して、意識の高揚を図る。 ②家庭クラブ活動において、ボランティア活動を計画し、積極的に参加させる。 ③地域のボランティア活動などに積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①グローバル探究Iでは、講師を招聘して高知県の社会課題や成功要因の分析を行った。また、探究サイクルを理解させるために高知県の課題解決策を考えさせた。 ②校門前の植栽では、家庭クラブ委員以外で15名の参加があった。 ・「届けよう、服のチカラプロジェクト」に係る感想文より、自分たちでできる社会貢献について前向きに取り組もうとする意志が確認された。 	<ul style="list-style-type: none"> ①グループで作業する際、役割分担が固定化される傾向がある。 ・外部講師招聘について検証が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①振り返りシートで役割分担が確認できるようにして固定化を防ぐ。 ②PTAに協力いただいたり、あけぼの祭を活用し、取り組みについて発信する。 	<p>問題発見・解決力に対する自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">1年</th> <th colspan="2">2年</th> </tr> <tr> <th></th> <th>肯定</th> <th>77.7</th> <th>71.6</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>グローバル探究の活動を通して、問題を見つける力が身に付いているか?</td> <td>否定</td> <td>15.7</td> <td>22.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>グローバル探究の活動を通して、問題を解決する力が身に付いているか?</td> <td>肯定</td> <td>79.6</td> <td>71.9</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>否定</td> <td>13.9</td> <td>23</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(「学校評価アンケート」より)</p> <p>1・2年生とも7割を超える生徒がグローバル探究を通して問題を見たり問題を解決する力が身に付いていると回答している。このことは、言語活動を充実させ、主体的かつ協働的に探究活動を行ってきた成果であると考えられる。</p>		1年		2年			肯定	77.7	71.6		グローバル探究の活動を通して、問題を見つける力が身に付いているか?	否定	15.7	22.1		グローバル探究の活動を通して、問題を解決する力が身に付いているか?	肯定	79.6	71.9			否定	13.9	23		<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【グローバル探究の指導計画】 ①ゴールを明確にした系統的な指導計画を策定する。 ②リサーチ・ペーパーのゴールを明確にするとともに、指導支援のための研修計画や外部資源の活用について明確にする。 ③授業時間内で完結できるよう、余裕を持った計画を編成する。 																																																																																													
			1年		2年																																																																																																																										
			肯定	77.7	71.6																																																																																																																										
グローバル探究の活動を通して、問題を見つける力が身に付いているか?	否定	15.7	22.1																																																																																																																												
グローバル探究の活動を通して、問題を解決する力が身に付いているか?	肯定	79.6	71.9																																																																																																																												
	否定	13.9	23																																																																																																																												
<p>2年</p> <ul style="list-style-type: none"> ①グローバル探究IIへの能動的・積極的な参加 ②社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒の割合50%以上 ③政治的教養として、社会の諸課題について多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①グローバル教育部と連携し、生徒が能動的・積極的に参加できる環境を整備するとともに機会提供を行う。また、内容の充実を図る。 ②グローバル探究でのリサーチ活動に関する情報提供や校外で実施されるボランティア活動の情報提供を積極的に行い、参加を促す。 ③LHを活用したり、公民科と連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①探究テーマに係る構想発表会を実施。また、実証的にテーマを探究させるため、夏季休業中にアクションプランを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①取組が消極的な生徒に対する指導が必要である。 ②夏休み以降に実施される外部での各種活動に自主的に参加する生徒を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②情報提供とともに積極的な参加を勧める。 ③公民科と連携して、政治・経済等の授業で、国際的諸課題についてのアクティブラーニング(ディベート等)を実施する。 	<p>社会的諸課題に対する意識</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="3">1年</th> <th colspan="3">2年</th> <th colspan="3">3年</th> </tr> <tr> <th></th> <th>肯定</th> <th>38.7</th> <th>35.0</th> <th>32.1</th> <th>肯定</th> <th>60.9</th> <th>65.0</th> <th>67.9</th> <th>肯定</th> <th>83.6</th> <th>76.4</th> <th>71.2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>今年度、自主的な社会貢献活動を実施したか?</td> <td>否定</td> <td>60.9</td> <td>65.0</td> <td>67.9</td> <td>肯定</td> <td>13.5</td> <td>19.4</td> <td>21.1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>あるいはその活動を計画しているか?</td> <td>肯定</td> <td>83.6</td> <td>76.4</td> <td>71.2</td> <td>否定</td> <td>13.5</td> <td>19.4</td> <td>21.1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(「学校評価アンケート」より)</p> <p>自主的に社会貢献活動を行った生徒は22%程度であり、その行動計画を立てている生徒は12～17%ほどである。自主的に計画し実施するのはハードルが高いと考えられるが、グローバル探究をはじめとする各授業での探究活動を通して社会貢献の意識は高まってきており、来年度はさらなる伸びが期待できる。</p>		1年			2年			3年				肯定	38.7	35.0	32.1	肯定	60.9	65.0	67.9	肯定	83.6	76.4	71.2	今年度、自主的な社会貢献活動を実施したか?	否定	60.9	65.0	67.9	肯定	13.5	19.4	21.1					あるいはその活動を計画しているか?	肯定	83.6	76.4	71.2	否定	13.5	19.4	21.1					<p>B</p> <p>A</p>																																																																								
	1年			2年			3年																																																																																																																								
	肯定	38.7	35.0	32.1	肯定	60.9	65.0	67.9	肯定	83.6	76.4	71.2																																																																																																																			
今年度、自主的な社会貢献活動を実施したか?	否定	60.9	65.0	67.9	肯定	13.5	19.4	21.1																																																																																																																							
あるいはその活動を計画しているか?	肯定	83.6	76.4	71.2	否定	13.5	19.4	21.1																																																																																																																							
<p>3年</p> <ul style="list-style-type: none"> ①社会貢献活動や自己研究に取り組む生徒の割合70%以上 ②政治的教養として、社会の課題を見出し、探究し解決する力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ホームや学年を通じて、果たすべき義務と責任を自覚させる。 ②公民科と連携を取りながら、新聞等メディアを見る習慣を確立させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校生活アンケート 「人の役に立つ仕事に就きたい」肯定的回答 94.5% 「自分は役に立たない」否定的回答 74.7% 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業に向けて、社会人としての意識を確立させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 面接をはじめ、各種の指導を通してあるべき状態に近づける。 	<p>社会の諸課題に対する関心について</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">1年</th> <th colspan="2">2年</th> </tr> <tr> <th></th> <th>肯定</th> <th>57.0</th> <th>64.9</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高知県が抱えている課題(人口減少問題や少子高齢問題、財政問題等)に関心がある。</td> <td>否定</td> <td>18.5</td> <td>14.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>日本と諸外国との間で生じている問題(政治問題や領土問題、経済問題等)に関心がある。</td> <td>肯定</td> <td>54.9</td> <td>66.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>否定</td> <td>20.8</td> <td>16.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地球規模の問題(世界の平和、人権、経済、環境、資源・エネルギー、食料、人口、民族・宗教などの社会問題等)に関心がある。</td> <td>肯定</td> <td>58.9</td> <td>72.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>否定</td> <td>17.0</td> <td>12.2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(「資質・力量調査」より)</p> <p>高知県が抱える課題をはじめ、日本と諸外国との間で生じている問題、地球規模で起こっている社会問題等に対して、1・2年生の過半数を超える生徒が関心があると回答している。2012年にNHKが全国の高校生を対象に行った「生活と意識調査」結果によれば、政治に対する関心があると回答した高校生は49.9%であった。単純には比較できないが、NHK調査と比較しても、本校生徒の政治的教養が一定醸成されていると考えられる。</p>		1年		2年			肯定	57.0	64.9		高知県が抱えている課題(人口減少問題や少子高齢問題、財政問題等)に関心がある。	否定	18.5	14.8		日本と諸外国との間で生じている問題(政治問題や領土問題、経済問題等)に関心がある。	肯定	54.9	66.1			否定	20.8	16.2		地球規模の問題(世界の平和、人権、経済、環境、資源・エネルギー、食料、人口、民族・宗教などの社会問題等)に関心がある。	肯定	58.9	72.7			否定	17.0	12.2		<p>A</p>																																																																																						
	1年		2年																																																																																																																												
	肯定	57.0	64.9																																																																																																																												
高知県が抱えている課題(人口減少問題や少子高齢問題、財政問題等)に関心がある。	否定	18.5	14.8																																																																																																																												
日本と諸外国との間で生じている問題(政治問題や領土問題、経済問題等)に関心がある。	肯定	54.9	66.1																																																																																																																												
	否定	20.8	16.2																																																																																																																												
地球規模の問題(世界の平和、人権、経済、環境、資源・エネルギー、食料、人口、民族・宗教などの社会問題等)に関心がある。	肯定	58.9	72.7																																																																																																																												
	否定	17.0	12.2																																																																																																																												

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	中間期評価	課題	対策	自己評価	学校関係者評価	今後の課題																																																														
英語運用力の向上と国際交流活動の推進	1・2年生全員が受検する体制にならない限り、目標達成は厳しいと考えられる。しかしながら、そうすると指導者の手が足りないという問題が生じる。如何に自律的に臨む生徒を育成するか、学校全体で考える必要がある。 この2年間、英語ディベート全国大会への出場が途絶えている。次年度は、県内唯一の英語科の復権を図りたい。 授業において、留学生が発表したり意見を表明する機会を設けたい。	1年 ①英検準2級 普通科50%以上取得 英語科100%取得 英検2級 英語科20%以上取得 ②各種コンテスト入賞 ③将来にわたって国際的な視野でグローバルな地域課題を解決したいと考える生徒の割合30%以上	①授業でのプロジェクト活動により、生徒の英語使用量を増やし、実用的な英語力を身につける姿勢を育てる。 ・2次試験対策として、同形式のスピーキングテストを実施する。 ・生徒への情報の周知徹底と受験奨励を強化する。 ②都道府県又は全国規模で実施されるスピーチコンテストやディベート大会等の情報提供や参加奨励、開催時期に合わせた適切な指導を行う。 ③実践的英語力を身につけるため、多読・多聴・多話・多書を用いてバランスよく4技能の伸長を図る。	①【2級】英語科 1名受験し合格者なし 【準2級】普通科 2名受験し合格者なし	①英検受験者が少ない。	①第2回の英検受験について、模擬試験や定期試験の結果を参考に、個別に声掛けをするとともに、授業の中でも受検を奨励する。	英検取得状況 *上段は人数 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">1年</th> <th colspan="2">2年</th> <th colspan="2">3年</th> </tr> <tr> <th>普通科</th> <th>英語科</th> <th>普通科</th> <th>英語科</th> <th>普通科</th> <th>英語科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>準1級</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>取得者率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5.0%</td> </tr> <tr> <td>2級</td> <td>2</td> <td>7</td> <td>12</td> <td>23</td> <td>21</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>以上取得者率</td> <td>0.8%</td> <td>17.1%</td> <td>5.1%</td> <td>57.5%</td> <td>8.8%</td> <td>82.0%</td> </tr> <tr> <td>準2級</td> <td>89</td> <td>32</td> <td>101</td> <td>17</td> <td>112</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>以上取得者率</td> <td>37.9%</td> <td>95.1%</td> <td>47.9%</td> <td>100%</td> <td>55.9%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>生徒数</td> <td>240</td> <td>41</td> <td>237</td> <td>40</td> <td>237</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table> <p>全学年とも昨年度に比して取得率が上昇している。1・2年生で2級取得者が増加したことは取組の成果と言えよう。3年生英語科においても、準1級を2名が取得、2級の取得率85%と例年通りの成果を出すことができた。設定目標には到達できていないものの、英検受験が普通のことであるという文化が形成されつつある。</p>		1年		2年		3年		普通科	英語科	普通科	英語科	普通科	英語科	準1級	0	0	0	0	0	2	取得者率						5.0%	2級	2	7	12	23	21	32	以上取得者率	0.8%	17.1%	5.1%	57.5%	8.8%	82.0%	準2級	89	32	101	17	112	6	以上取得者率	37.9%	95.1%	47.9%	100%	55.9%	100%	生徒数	240	41	237	40	237	40	B	【英語検定取得率の向上に向けて】 ①英語運用能力の高い生徒については、第1回・第2回で受検するよう指導する。 ②授業で英語検定対策が行えるような指導計画を策定する。 ③学年団の共通理解の基で、英語検定の取得を勧める。
			1年		2年		3年																																																																
			普通科	英語科	普通科	英語科	普通科	英語科																																																															
準1級	0	0	0	0	0	2																																																																	
取得者率						5.0%																																																																	
2級	2	7	12	23	21	32																																																																	
以上取得者率	0.8%	17.1%	5.1%	57.5%	8.8%	82.0%																																																																	
準2級	89	32	101	17	112	6																																																																	
以上取得者率	37.9%	95.1%	47.9%	100%	55.9%	100%																																																																	
生徒数	240	41	237	40	237	40																																																																	
2年 ①英検準2級 普通科80%以上取得 英検2級 普通科10%以上取得 英語科50%以上取得 ②英語ディベート全国大会出場 ③将来にわたって国際的な視野でグローバルな地域課題を解決したいと考える生徒の割合50%以上	①英検合格等の目的達成を強く意識させる。 ・教科書を活用して2次対策を行い、合格につながる授業展開をする。 ②都道府県又は全国規模で実施されるスピーチコンテストやディベート大会等の情報提供や参加奨励、開催時期に合わせた適切な指導を行う。 ・授業との関連を持たせ、英語スピーチ・ディベートの技術力を向上させる。 ③設定された「食」に関するテーマに基づき、英語での探究授業、プレゼンテーションを行う。	①【準1級】英語科 2名受験し合格者なし 【2級】普通科 1名受験し合格(取得率0.4%) 英語科 7名受験し1名合格(取得率20.0%) 【準2級】普通科 69名受験し27名合格(取得率39.7%) 英語科 2名受験し2名合格(取得率100%) ③「食」に関する探究授業のプレゼンテーションを3つのテーマ(食と宗教・信念/食と言語・文化/フェアトレード)について行った。	①本年度より英検を全員受検としているが、1学期は準2級の受験者数が思ったほど伸びなかった(昨年度より28名増)。受検代金をホーム費より徴収しなかったことも一因であると考えられる。また、受検することが目的となり、勉強しないまま受検する生徒が多い。 ③テーマが高度であるため、調べた内容を限られた授業時間の中で、英語で準備し発表するのに苦労している。	①英語教員のみでなく、ホームでも全員受検・合格を目標に地道に声掛けをしていく。準2級は通過点であり、最終ゴールは2級の取得が目標であることを学年全体で周知する。 ③各テーマの内容を理解するために、発表者はプレゼン内容についての語彙リストを作成し提示する。	・高知県英語ディベート大会 3位(英語科2年生) ・高知県国際教育生徒発表会 個人の部優秀賞(普通科2年生) ・高知県スピーチコンテスト プリベアード部門(英語科1・2年生)、即興部門に参加(英語科1年生) ・よさこいカップ入門期ディベートに参加(普通科1年生) よさこいカップ入門期ディベートに参加(普通科2年生) ・第4回高校生「国際問題を考える日」に1年生24名、2年生5名が参加 ・「ハイスクール世界サミットin福島」に2年生2名が参加 ・「世界津波の日『高校生サミット』」に2年生5名が参加	各種大会での受賞については、例年に比して少ないが、普通科生徒の参加が増してきたこと、世界サミット等の国際大会への参加が見られたことは参加生徒のコミュニケーション能力や異文化理解を向上・深化させることのみならず、学校文化の形成に有効に作用すると考えられる。	B	【各種大会での入賞を得るために】 ①ALT及び外国人講師が主となり、効果的な指導を行う。 ②グローバル・イシュー等に言及する各種大会に可能な限り参加させる。																																																															
3年 英検2級 普通科20%以上取得 英語科100%取得 英検準1級 3名取得	・英検合格等の目的達成を強く意識させる。 ・生徒への情報の周知徹底と受験奨励を強化する。 ・センター試験との共通点を示し、センター試験の学習をすると同時に、英検に対応する英語力を養う。	①【準1級】普通科 1名受験し合格者なし 英語科 11名受験し2名合格(取得率5.0%) 【2級】普通科 34名受験し7名合格(取得率6.7%) 英語科 6名受験し5名合格(取得率79.5%) 【準2級】普通科34名受験し7名合格(取得率54.2%)	・英検受験者、合格者ともに少ない。 ・今年度よりライティングテストが導入されたことや観点別評価が採用されたことを受け、技能のバランスを考えた指導が必要である。	変更点等の周知を十分図ったうえで、大学入試との関連を示しながら、英検受験への積極的な呼び掛けと対策を指導する。	【グローバル・マインドについて】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいか?</td> <td>肯定</td> <td>37.6</td> <td>27.2</td> <td>46.6</td> </tr> <tr> <td></td> <td>否定</td> <td>50.0</td> <td>67.4</td> <td>46.6</td> </tr> <tr> <td>将来にわたって国際的な視野でグローバルな地域課題を解決したいか?</td> <td>肯定</td> <td>41.4</td> <td>32.1</td> <td>48.5</td> </tr> <tr> <td></td> <td>否定</td> <td>42.9</td> <td>62.4</td> <td>42.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>(「学校評価アンケート」より)</p> <p>国際的な視点や国際的な活動といったグローバルマインドについては、1・3年生において一定形成されていると評価できる。その一方で、2年生については十分形成されているとは言い難い。内向き志向が高いという学年の特性があるが、SGH事業を通してグローバル思考の醸成を図りたい。</p>			1年	2年	3年	将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいか?	肯定	37.6	27.2	46.6		否定	50.0	67.4	46.6	将来にわたって国際的な視野でグローバルな地域課題を解決したいか?	肯定	41.4	32.1	48.5		否定	42.9	62.4	42.4	B	【グローバル・マインドを啓発するために】 ①グローバル探究をはじめ、教科・科目の授業においてもグローバル思考を醸成する。 ②効果的な講演会を計画する。																																							
		1年	2年	3年																																																																			
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいか?	肯定	37.6	27.2	46.6																																																																			
	否定	50.0	67.4	46.6																																																																			
将来にわたって国際的な視野でグローバルな地域課題を解決したいか?	肯定	41.4	32.1	48.5																																																																			
	否定	42.9	62.4	42.4																																																																			

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	中間期評価	課題	対策	自己評価	学校関係者評価	今後の課題																										
5	<p>・限られた予算の中で、優先事項を洗い出し適切に執行していく。</p> <p>・耐震工事が終了し、懸案であった南舎トイレの全面改修となった。次年度以降も、環境美化の維持に努めたい。</p> <p>・PDCAサイクルに基づき適切に執行していく。</p>	<p>①生徒の学習環境の整備・充実が常に図られている</p> <p>②安心・安全な教育環境が整っている</p> <p>③防災用品の充実・管理</p>	<p>①効率的な予算執行</p> <p>②安全・安心な環境作り</p> <p>③校内の巡回等による学習環境等の把握</p>	<p>①7月末に高性能印刷機を導入。</p> <p>②1学期は大きな工事はなく、2学期以降に備えているところである。</p> <p>③南舎の救助袋が更新された(8月)。</p>	<p>①印刷機のインク代等の節約。</p> <p>②新校舎建築に伴う先行建築主体工事の着工。</p> <p>・運動場の排水は修繕(土砂取り除き)を行ったが、まだ土砂は、若干外へ流れている。</p>	<p>①新印刷機の有効利用の促進を図るとともに、白黒でできるものはできるだけ白黒で印刷する等消耗品の節約を図る。</p> <p>②請負業者が決まったら、頻りに連絡を取り合って、できるだけ多くの情報を教職員に提供する。</p> <p>・少なくとも、柙の清掃は毎年行うようにする。</p>	<p>【学校の環境整備について】保護者からの回答 (%) H28 H27 H26</p> <table border="1"> <tr> <td>学習や部活動のための環境整備がなされているか？</td> <td>肯定</td> <td>70.4</td> <td>72.1</td> <td>78.6</td> </tr> <tr> <td></td> <td>否定</td> <td>23.1</td> <td>21.3</td> <td>21.4</td> </tr> </table> <p>(「学校評価アンケート」より)</p> <p>保護者による学校評価アンケート結果によれば、学習や部活動のための環境整備について、7割以上の保護者から肯定的な回答を頂けた。しかしながら、肯定的な回答率について過去3カ年を比較すると、肯定回答が減少傾向にある。この結果は、昨年度の耐震工事や今年度の新校舎建設に伴う基礎工事等の影響と考えられる。工事業者との連携を図り、騒音等についてはできる限り抑えるよう努力していく。</p>	学習や部活動のための環境整備がなされているか？	肯定	70.4	72.1	78.6		否定	23.1	21.3	21.4	B	<p>生徒会より、学年ごとの学習室設置の要望が出された。</p> <p>【学習環境を確保するために】 新校舎建築工事の請負業者と学校間の連絡を確実にし、より良い環境の中で学習・部活動ができるよう配慮する。</p>																
学習や部活動のための環境整備がなされているか？	肯定	70.4	72.1	78.6																															
	否定	23.1	21.3	21.4																															
6	<p>・「西高だより」をはじめ、「学年通信」、「SGH通信」とも高い評価が得られている。次年度も、一層の充実改善を図りたい。</p> <p>・協力を惜しまないPTA役員とともに、より良いPTA総会の在り方を考えたい。</p> <p>・6月の中学校訪問に向けて、説明資料や配布資料の編纂を行うが、機会があれば中学生のニーズを探してみたい。</p>	<p>①情報発信の拡充</p> <p>②PTA総会への保護者参加率の向上</p> <p>③中学校の生徒・教員及び地域住民が西高のよさを知っている</p>	<p>①「西高だより」を充実させる。</p> <p>・新しいHPを有効に活用する。</p> <p>・校門前の掲示板を活用する。</p> <p>・SGH通信を随時発行し、取組状況の広報に努める。</p> <p>②PTA総会参加率40%以上が得られるようPTA役員との連携を取っていく。</p> <p>③中高連絡会を開催し、中学校へ西高校の取り組みを説明する。</p> <p>・体験入学を開催して、中学生に西高校をよく知ってもらおう。</p>	<p>①PTA広報部の積極的な取組により、保護者目線での情報発信ができていく。</p> <p>②PTA総会等参加率58%</p> <p>③中高連絡会では45校からの参加が得られた(昨年度は49校)。</p>	<p>①校門前掲示板に掲示する情報が、特定のクラブによるものに限定されている。</p> <p>・HPにSGH通信第1号以降をアップできていない。</p>	<p>①校門前掲示板の活用について、当番制の企画とする。</p> <p>・役割分担を明確にし、発行と同時にHPにアップする。</p>	<p>【「西高だより」の閲読程度について】 H28 H27 H26 (%)</p> <table border="1"> <tr> <td>毎回読んでいる</td> <td>42.2</td> <td>43.0</td> <td>45.3</td> </tr> <tr> <td>折に触れて読んでいる</td> <td>47.1</td> <td>42.7</td> <td>37.9</td> </tr> <tr> <td>読んでいない</td> <td>8.0</td> <td>11.3</td> <td>10.9</td> </tr> <tr> <td>「西高だより」そのものを知らない</td> <td>2.7</td> <td>3.0</td> <td>5.9</td> </tr> </table> <p>保護者からの回答 (「学校評価アンケート」より)</p> <p>【情報発信について】保護者からの回答 (%) H28 H27 H26</p> <table border="1"> <tr> <td>発信情報は充実しているか？</td> <td>肯定</td> <td>71.9</td> <td>73.0</td> <td>78.4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>否定</td> <td>17.4</td> <td>17.2</td> <td>21.6</td> </tr> </table> <p>(「学校評価アンケート」より)</p> <p>「西高だより」他、SGH通信を14号まで発行した。SGH事業の取組については、各種メディアを通しての発信を行っており、学校案内の一手段となっている。「西高だより」を読んでくださる保護者の割合も増加してきており、情報発信については一定の評価ができる。</p>	毎回読んでいる	42.2	43.0	45.3	折に触れて読んでいる	47.1	42.7	37.9	読んでいない	8.0	11.3	10.9	「西高だより」そのものを知らない	2.7	3.0	5.9	発信情報は充実しているか？	肯定	71.9	73.0	78.4		否定	17.4	17.2	21.6	A	<p>SGHで取り組んでいることを中学校にも教えていただけると、参考になる。</p> <p>【より良い連携のために】</p> <p>①オープンスクールを高知市を二分する形で実施するよう検討する。</p> <p>②国際交流推進会との連携を深め、留学生の受入確保とホストファミリーへの情報提供等を定期的に行う。</p> <p>③「西高だより」を中学校に配付する際に、併せて「SGH通信」を配付する。</p>
毎回読んでいる	42.2	43.0	45.3																																
折に触れて読んでいる	47.1	42.7	37.9																																
読んでいない	8.0	11.3	10.9																																
「西高だより」そのものを知らない	2.7	3.0	5.9																																
発信情報は充実しているか？	肯定	71.9	73.0	78.4																															
	否定	17.4	17.2	21.6																															
7	<p>・SGH事業が滞りなく進む体制を整えるとともに、生徒がよりよい探究成果を出すことができるよう条件整備を行う。</p> <p>さらに、大学の研究者と連携して評価の研究を行う。</p> <p>・IB教育については、推進チームを編成しカリキュラム開発を中心に進めていく。毎月、週休日を利用して小学生やその保護者等を啓発する研修会等を企画したい。</p>	<p>①SGH事業の進捗管理</p> <p>②IBコース設置に向けた研究</p>	<p>①G探I・IIの探究授業研究チームで内容検討を行う。実施後はその都度振り返りを行い、目標達成に向けて取り組む。</p> <p>②DPの下支えとなるMYPの教育課程について全教科領域のガイドブックを理解し、IBプログラムの導入に活かす。また、正しい理解のうえで新中高を選択していただけるよう、広報活動を行う。児童を対象としたワークショップは、IBOを招いた高知でのワークショップをその1回目とする。</p>	<p>①1・2年の学年団への周知会は放課後、定期的に行っている。昨年度のように授業研究チームの空き時間が設定できず、フルメンバーでの開催が難しい状況にある。</p> <p>②小中高各教科の学習指導要領を、IBの各教科の規則と照らし合わせ指導主事の助言を得ながらカリキュラムを検討している。</p> <p>・6月7日に西高校主催の体験授業を実施。述べ92名の児童の申込みがあった。</p> <p>・8月15日の公式ワークショップでは88組の親子と132名の参観があった。うち、教員の参加は42名(県外8名)であった。これらの結果より、IBに対する関心の高さが窺われる。</p>	<p>①探究授業研究チームメンバーの空き時間が一致せず、フルメンバーでの開催が難しい状況にある。</p> <p>②東京派遣の4名と、教育センター研究室と西高校のメンバーで情報の共有をスムーズにする必要がある。</p> <p>・保護者に対する説明機会の確保を図る必要がある。</p>	<p>①細かな決定事項については、管理職と学年主任が空いている時間を使用し、協議のうえ決定していく。</p> <p>②ネット上で、情報や資料、アイデアを共有できるシステムをつくり動かしたところである。</p> <p>・児童の体験と保護者への説明の場をわけて開催する方向で検討。IBOの教育専門官を講師に招聘予定。</p>	<p>①グローバル探究I・IIの担任会、授業検討チーム会を火曜日の放課後、定例会として設定し、事前検討を図ることができた。</p> <p>②IBのMYPに関する授業の準備が整ってきた。ユニットプランナーの整備が進み、軸となる問いや評価規準の詳細などについて作成できた。</p> <p>【SGH活動について】保護者からの回答 (%) H28</p> <table border="1"> <tr> <td>SGH活動は充実しているか？</td> <td>肯定</td> <td>78.3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>否定</td> <td>21.7</td> </tr> </table> <p>【IB教育への期待】保護者からの回答 (%) H28</p> <table border="1"> <tr> <td>IB教育についてどの程度期待しているか？</td> <td>肯定</td> <td>78.4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>否定</td> <td>21.6</td> </tr> </table> <p>(「学校評価アンケート」より)</p> <p>・SGH事業の取組を通して、グローバルリーダーの育成が図られていると思われる。高知県グローバル教育推進委員会やSGH運営指導委員会において一定の評価が得られた。また、リサーチ・ペーパー作成に関する指導・助言等もいただくことができた。</p> <p>・IB教育の研究開発については、MYPのユニットプランナーが作成できた。また、校内での理解を促すために、昨年同様、職員会議で5分程度の研修実施とIB通信を9号まで発行した。</p> <p>・保護者からの学校評価アンケート結果は、SGH事業やIB教育への期待の高さを物語っていると考えられる。次年度も充実した取組を継続したい。</p>	SGH活動は充実しているか？	肯定	78.3		否定	21.7	IB教育についてどの程度期待しているか？	肯定	78.4		否定	21.6	A	<p>【振興に向けて】</p> <p>①正確な情報発信に努める。</p> <p>②機能的な検討チーム会の運営を心がける。</p>														
SGH活動は充実しているか？	肯定	78.3																																	
	否定	21.7																																	
IB教育についてどの程度期待しているか？	肯定	78.4																																	
	否定	21.6																																	